

## 天文民俗調査報告(2010年)

北尾 浩一\*

### 概要

2009年に引き続いて2010年においても、農村・漁村の暮らしのなかで形成された日本古来の伝統的な星名を記録することができた。特に、千葉県においては2010年においてもメラボシというカノープスの星名を記録することができた。また、千葉県館山市布良のようにバスの停留所の待合室に「めら星」と表示されて地域で伝承しようという事例もあった。オリオン座、おうし座、ベテルギウス、リゲル、アルデバラン、カノープス等の西洋名だけではなく、生活経験にもとづいた星名を積極的に学ぶことは、今日の教育分野においてもすると断片的な知識の暗記になりがちな星名を文化として多様で豊かなものであると認識させるために大きく貢献することであろう。

本報告の目的は、決して過去のものではなく、今も語られている2010年の星名伝承資料を、科学教育に活用するために記録することである。

### 1. はじめに

1978年、新潟県佐渡郡相川町姫津(現 佐渡市)より星の伝承の調査をはじめてから33年目、2010年の調査報告をさせていただく。2010年においても星を目標に生活をしてきた人びとから様々な星名伝承を記録することができた。

2010年に調査を実施した地域は、「東北」「関東」「東海」「近畿」「中国」「九州」である。「北海道」「甲信越」「北陸」「四国」「奄美」「沖縄」の地域は、実施することができなかった。

### 2. 調査の概要

#### 2-1. 調査方法

漁業に従事した経験を持つ高齢者(おおむね昭和10年以前の生年)を中心にインタビュー調査を行なった。一部、漁村地区以外も対象にした。最も高齢の話者は大正2年生まれ、最も若い話者は昭和24年生まれであった。2009年と同様、予めアポイントを取るという方法ではなく、調査地において伝承者を探した。一日歩いても星名伝承に出会えないケースが2009年に比べて増えたが、ともかく「歩く」ということをキーワードに実施した。また、星名伝承以外に、年中行事(七夕等)についても調査対象とした。

#### 2-2. 調査地

2010年1月～12月までに、以下の52箇所で見星の記録を行なうことができた。

- ・1月…千葉県浦安市猫実、静岡県伊東市新井、愛知県幡豆郡幡豆町東幡豆
- ・3月…茨城県神栖市波崎、千葉県銚子市黒生町、南房総市白浜町乙浜、千倉町千田、愛知県田原市江比間町、蒲安市西浦町、幡豆郡一色町一色、佐久島
- ・4月…茨城県北茨城市平潟町、ひたちなか市和田町、神奈川県中郡大磯町高麗
- ・5月…長崎県壱岐市勝本町勝本浦、芦辺町諸吉本村触、芦辺町瀬戸浦、郷ノ浦町郷ノ浦本居、石田町印通寺浦、熊本県宇城市不知火町松合、大阪府泉佐野市新町、岸和田市中之浜町
- ・6月…宮城県気仙沼市唐桑町馬場、牡鹿郡女川町高白浜高白、石巻市寄磯浜、千葉県木更津市中島、岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲神原、谷汲木曾屋
- ・8月…千葉県鴨川市浜荻、天津、太海、南房総市和田町和田、木更津市中島
- ・9月…千葉県館山市布良、相浜、鴨川市東江見、木更津市中島、神奈川県横須賀市佐島、秋谷、藤沢市片瀬海岸、鎌倉市腰越、由比ガ浜、

\*中之島科学研究所(科学教育)  
kitao@kagaku-shinko.org

島根県松江市美保関町美保関、出雲市大社町宇龍、日御碕、杵築北、多伎町口田儀、

- ・10 月…静岡県沼津市内浦三津、三重県鳥羽市答志町
- ・11 月…愛知県知多郡南知多町豊浜中州、三重県松阪市狛師町、鳥羽市石鏡町
- ・12 月…千葉県安房郡鋸南町竜島、愛知県幡豆郡一色町千間

### 3. 各地域の星名伝承

2010年に各地域で記録した星名伝承の概要は、以下のとおりである。

#### 3-1. 東北

6月に、宮城県気仙沼市唐桑町馬場、牡鹿郡女川町高白浜高白、石巻市寄磯浜にてイカ釣り漁師の星名伝承を記録した。星の出に、イカが釣れるという伝承は、2010年においても記録することができた。

##### (1) 気仙沼市唐桑町馬場

伝承者は、「勉強よりもイカ釣りのほうがおもしろい。学校に行く格好して、よその船に乗った」と語った。学校よりも船が好きだった。最初は昼だけだったが、やがて夜も行くようになった。

・役星…サジボシ(サジにあがる。サジとはサキ(先)のこと。ひとつ、明るい。アルデバラン)、ムヅラ(ムヅラと言えばプレアデス星団のことで、六連星[ムツラボシ]から変化したものと思われるがちであるが、この場合はオリオン座三つ星と小三つ星)

・目標の実際…ムヅラっていうん出る。その星の上がりまで釣れる。ムヅラボシ上がったから帰るか、と言った。その前にサジボシ上がった。サジボシ、サジに上がるから。サジボシの上がるときに、いちばんよくて、ムヅラって、星出るようになるといちばん絶好調。あと駄目、あと大きな群れない。ムヅラボシあがると、「ナガリ」という道具に切り替えた。イカが深いところへいく。イカさがってくる。ナガリは自分で作った。

・曇天で星が見えないとき…曇っていたときもイカが釣れる。勘。曇りのとき、今頃ムヅラあがった頃だ、帰るか、と言った。

・その他(七夕)…七夕、7月7日。竹に短冊かざって、ローソク立てて拝んだ。願い事を書いて。7月8日、海に納めた。海に流すことを海に納めるという。海に流すと言わない。(話者生年、昭和7年)

七夕の竹を、「海に納める」と言う。海からの恵みを大切に暮らすなかで語られる言葉のあたたかさを感じさせられた。

##### (2) 牡鹿郡女川町高白浜高白

イカ釣りに関係する星名伝承について記録した。

・役星…ムヅラ(星が6つ、3つずつ並んで。縦。気仙沼市と同様、オリオン座三つ星と小三つ星)

・目標の実際…ムヅラ出たから、イカ釣りにいっかよ、と言った。ムヅラ、大きい。出足に釣れる。星が南のほうにまわってるのを『星のまだき』と言った。上がったあたり、釣れる。(話者生年、昭和10年)

#### 3-2. 関東

##### [千葉県]

メラボシが2010年においても広く伝えられていた。また、時化の前兆と捉える伝承も記録することができた。カノープスは、高度が低いいため、風が強く汚れた空気が吹き飛ばされ透明度が良いときのほうが見やすい。そのため、カノープスが見えたとき風が強く天気が悪くなる前兆と考えられたのかもしれない。

##### (1) 鴨川市浜荻

7名にインタビューした。メラボシを伝承していたのは3名(昭和4年生まれ、1名。昭和8年生まれ、2名)、星名の伝承者であるがメラボシを伝えていなかったのが1名(昭和2年生まれ)、星名を伝えていなかったのが3名(昭和5、10、20年生まれ)であり、高齢だから必ずしもメラボシの伝承者であるとは限らなかった。

##### <事例1>

昭和2年生まれの兄は伝えていなかったが、弟が伝えていた。

・天候との関係…メラボシ、天気が悪くなる。年寄りが、メラボシ見て天気どうだと言っていたのを聞いたが、自分でメラボシを見て天気を判断したことはない。(話者生年、昭和4年)

##### <事例2>

・星の特徴…ひとときわ光りの強い星。大きく見える。

・見える時間帯…メラボシ、夜明けに上がる。(話者生年、昭和8年)

##### <事例3>

地名布良と関連しており、「布良の人に聞いたら…」と助言してくれた。

・天候との関係…メラボシが見えると時化がくる。(話者生年、昭和8年)

##### (2) 鴨川市太海

8名にインタビューした。メラボシを伝承していたのは5名(大正2年生まれ、昭和3、4、11、13年生まれ、各1名)、星名の伝承者であるがメラボシを伝えていなかったのが3名(大正14年生まれ、昭和5、10年生まれ)であり、浜荻と同様、高齢だから必ずしもメラボシの伝承者であるとは限らなかった。

##### <事例1>

・星の特徴…大きい星。

・天候との関係…メラボシ上がったら、雨だとか。(話者生年、大正2年)

##### <事例2>

・星の特徴…大きい星。

・見える時間帯…サバ、夜釣りやって、「メラボシ出たか、じきに夜が明ける」って昔の人は言った。(話者生年、昭和3年)

<事例3>

年寄りから星名は聞いた記憶があるものの、どのような星かは伝えていなかった。

・メラボシ、聞いたような感じ。(話者生年、昭和4年)

<事例4>

自らは観察した経験はないが、明治29年生まれの父親から聞いた伝承を伝えていた。

・天候との関係…おやじから、時化の前兆と聞いていた。メラボシを見たことがない。どの星か知らない。(話者生年、昭和11年)

<事例5>

布良の人から、メラボシという星名を聞いたケースがある。「真っ赤に上がってくる」というように具体的に伝えていたものの、実際に見た経験はなかった。

・見える方向…南西

・天候及び漁との関係…メラボシ出たら、気象悪くなる。漁がある。メラボシ、上がり方によって、風が吹いてきたから気をつけろ！メラボシが真っ赤に上がってくるでしよ、風が吹くとか。(話者生年、昭和13年)

カノープスの見える方向について、南のほうに島等の障害物がないにもかかわらず、「南西」と伝えていた。草下英明氏の南房総市の事例でも「南西」である。(草下 1982) 今後の調査の課題である。

(3) 館山市布良

メラボシについては、布良のバスの停留所の待合室に「めら星」と明記されており、年上から年下への地域の伝承という形態ではなく、地域の星文化として、広く知られるようになった。

待合室のなかにはメラボシの解説があり、次のように、メラボシがカノープスであることとともに、伝承の概要が記されていた。

・真冬の深夜、真南の水平線すれすれに現れる「カノープス」は空気がよく澄んでいなければなりません



布良のバスの停留所と待合室

ので、めったに見ることができません。

・赤く輝くこの星を、布良で遭難した漁師の魂が成仏出来ずに漂っているのだとして「布良星」と呼ぶ所があります。

・明治から大正のはじ[ママ]にかけて、この浜のマグロ延縄漁では五百人以上が海の藻屑と消えています。

近年、生活のなかでの世代を超えた伝承という形態以外で習得した星名知識を記録することがある。筆者も、小説で読んでオリオン座の和名「ツヅミボシ」を知った話を聞いたことがある。特に、大正生まれ、昭和生まれは、新聞や書籍により様々な情報を入手する機会が多く、星名を聞いたとき、その星名知識を伝承という形態で習得されたものであるかどうかを確認する必要がある。

館山市布良においては、3名にインタビューを行なったが、伝承の形態でメラボシを伝え聞いていたのは1名(昭和8年生まれ)であった。2名(昭和10、20年生まれ)は、伝承以外の形態でメラボシの知識を習得していた。

<事例>

・見える場所…大島のほうに、メラボシ、見える。南の天気の良いとき。(指さして、あちらのほうに見えるかと教えてくださった)

・名前の由来…伝えていなかったが、「布良から見えるからメラボシという？」と推測。

・天候との関係…メラボシが見えたときは、時化がくるとかなんとか。メラボシ、風が吹く。時化がくるとか。迷信だから、信じない。天気予報ないから星頼りして。昔から、メラボシ、しける。星、頼りにして。

・伝承のはじまり…明治の人、昔の人言っていた。メラボシ、明治かもっと前かわからない。言い伝え、いつからはじまったのかわからない。(話者生年、昭和8年)

(4) 館山市相浜

館山市相浜において、2名にインタビューした。1名(昭和15年生まれ)の生業は漁業ではなかったが、96歳で亡くなった父親(漁師)から伝え聞いていた。1名(昭和8年生まれ)は、星名の伝承者であるが、昼間の漁専門でメラボシを伝えていなかった。

<事例>

・星の特徴…ひかりが違うらしい。ひかりが大きいらしい。(話者生年、昭和15年)

[神奈川県]

神奈川県鎌倉市由比ガ浜においては、ダイナンボシというカノープスの星名を記録することができた。また、方角を知るために北極星や北斗七星以外を目標にするケースがある。大磯町高麗では、明けの明星は、東

のほうに見えて、決して南や北、西に見えないので方角を知る目標となったという事例を記録した。

#### (1) 鎌倉市由比ガ浜

・ダイナンボシ…ダイナン、沖のことをダイナンという。ダイナンボシてことは聞いたことある。見て確認したことはない。(カノーブス)

・スバル…ごじょごじょと、かたまつた星。15、16。(プレアデス星団)(話者生年、昭和3年)

#### (2) 中郡大磯町高麗

・アサノミョージン…その星をたよりに現場まで行く。アサノミョージンとうしろのあかりとあわして。アサノミョージン、ありがたいからミョージンと言った。日の出、手をあわして拝んだ。それと同じ。(明けの明星)(話者生年、昭和6年)

### 3-3. 東海

静岡県、愛知県、岐阜県、三重県において、次のような星名を記録することができた。

#### [静岡県]

・伊東市新井…ナナツボシ(プレアデス星団)、サンボシ(オリオン座三つ星)、ジョウロ(北斗七星)  
・沼津市内浦三津…オオボシ(明けの明星)

#### [愛知県]

・田原市江比間町…ミツボシ(オリオン座三つ星)  
・蒲郡市西浦…オオボシ(明けの明星)  
・幡豆郡幡豆町東幡豆…サンコウサン(オリオン座三つ星)  
・幡豆郡一色町一色…アカツキノミョージョー(明けの明星)、サンコウサン(オリオン座三つ星)、キタノホシ(北極星[こぐま座α星])  
・幡豆郡一色町千間…ミツボシ(オリオン座三つ星)  
・幡豆郡一色町佐久島…サンコウ(オリオン座三つ星)  
・知多郡南知多町豊浜中州…チャータキボシ(明けの明星)、ミツボシ(オリオン座三つ星)

#### [岐阜県]

・揖斐郡揖斐川町谷汲神原…ミツボシサン(オリオン座三つ星)  
・揖斐郡揖斐川町谷汲木曾屋…ミツボシサン(オリオン座三つ星)

#### [三重県]

・松阪市獵師町…ヨアケボシ(明けの明星)、ミツボシ(オリオン座三つ星)  
・鳥羽市石鏡町…メシタキボシ(明けの明星)  
・鳥羽市答志町…チャータキボシ(明けの明星)

### 3-4. 近畿

1985年に大阪府岸和田市及び泉佐野市において、北極星についての徳蔵の伝承を記録した。

しかし、2010年においては記録することができなかった。

・岸和田市中之浜町…アサノミョージン(明けの明星)

・泉佐野市新町…スバル(プレアデス星団)

### 3-5. 中国

島根県において、次のような星名を記録することができた。

・松江市美保関町美保関…オオボシ(明けの明星)

・出雲市大社町宇龍…シマリ(プレアデス星団)、カラツキ(オリオン座三つ星)

・出雲市大社町日御碕…スマリ(プレアデス星団)

・出雲市大社町杵築北…カラツキ(オリオン座三つ星)、カラツキノアトボシ(シリウス)

・出雲市多伎町口田儀…オオボシ(宵の明星)

### 3-6. 九州

#### [長崎県]

壱岐市において、星の出を目標に漁をしているケースを記録することができた。

#### [イカ釣りの目標]

#### (1) 壱岐市勝本町勝本浦

##### <事例1>

・役星…スマル(かなり大きなかたまり。プレアデス星団)

・星の出にイカが釣れる理由…星の出、イカさわぐ。魚は知っている。星は、潮時が関係する。

(話者生年、大正6年)

##### <事例2>

・役星…スマリ(ボシ)(7つ並ぶ。スマリ小さい。スマリ、かたまつて。プレアデス星団)、カラツキ(旅の人は、ミツボシの出と言う。オリオン座三つ星)

・最もよく釣れる役星…カラツキ(カラツキの出は、ようきばつた。カラツキの出は一生懸命に取りよつた。スマリとカラツキの間も、少しは取れる。カラツキの出は、やっぱりたくさん取れます)

・曇天で星が見えないとき…曇って見えないときも勘で、もう出る時分、カラツキの出る時分、曇ってて見えなくても、出る頃になると取れます。

・その他…北極星、昔の人は、ネノボシ、ネノボシいうた。ネノボシでだいたい位置わかる。コンパスはなかった。さかはり(逆針)はあった。はりは、さすだけ。ネノボシのほうが頼りになった(話者生年、大正8年)

##### <事例3>

・役星…スバル(プレアデス星団)、カラツキ(オ

Orion座三つ星)

・目標の実際…スバル、カラツキの出、イカがもよおす(たくさんとれる)。通ったら(上あがったら)だめ。イカのつきが、いくぶん上あがるとつかんようになる。休まないでやっている。

(話者生年、昭和3年)

(2) 壱岐市芦辺町瀬戸浦

<事例>

・役星…スマリ(7つ夜中に小さくこまかくて。小さい。プレアデス星団)、ヨコゼキ(たてに3つなってる。同じ間隔。明るい。オリオン座三つ星)

・目標の実際…スマリ出るときイカつけた。スマリ出たときにイカがつく。潮時やったかな? スマリ、水面から出る。上へ。イカつけば、スマリ、それ見て帰る。(話者生年、昭和6年)

[イカ釣り以外の目標]

(1) 壱岐市芦辺町瀬戸浦

<事例1>

・目標にした星…スマル(5つ6つかたまってる。プレアデス星団)

・目標の実際…スマルの天井(てんじょう)がわりはサンマは潮時。11月、12月、スマルが天井(頭の上)を通る。夜中。そのとき、海をサンマがはねる。サンマの潮時。(話者生年、昭和7年)

<事例2>

・目標にした星…スバリ(プレアデス星団)、オオボシ(明けの明星)

・目標の実際…オオボシあがったらサンマ網。スバリの出、サンマの食いがよい。サンマがはねる。

(話者生年、昭和15年)

(2) 壱岐市石田町印通寺浦

<事例>

・目標にした星…スマリ(かたまってる星。いくつかわからん、いっぱい。プレアデス星団)

・目標の実際…スマリあがるから、網やろう、と言った。潮時。

・その他…ミソコシボシ、味噌濾す竹で編んだミソコシ、おそらく北斗七星のこと。明治18年生まれのおやじが、「ミソコシボシあがったばい」と言っていたのを聞いていた。(話者生年、大正8年)

[熊本県]

宇城市不知火町松合において、2名の話者からサカヤノマスを記録することができたが、1名はオリオン座三つ星と小三つ星とη星で構成する配列、1名は北斗七星を意味していた。プレアデス星団については、2名ともスバルであった。

<事例1>

東からのぼるオリオン座三つ星と小三つ星とη

星で構成する配列を酒屋の櫛に見立てたケースである。

・サカヤノマス、光ってらしてる。柄がついて。酒屋の櫛、星でこのような格好になってる。

・夜明けなるとサカヤノマス。夜明けいうか時季によって違う。普通の星より光が強か。東から。

・ヨアケノホシ。サカヤノマスより光の太か。その星を見て、もう夜明くるばいな、と言った。(話者生年、昭和10年)

<事例2>

東からのぼる星ではなく、北の空の北斗七星を酒屋の櫛に見立てたケースである。

・サカヤノマス、北斗七星とちがうかな。(話者生年、昭和6年)

#### 4. おわりに

2010年においても、多様で豊かな星名伝承を記録することができた。特に千葉県における人びととメラボシとのかかわりの大きさは特記すべきである。

野尻抱影氏(1973)、草下英明氏(1982)、石橋正氏(1992)、三上晃朗氏(星の民俗館ホームページ)、横山好廣氏(2009)、筆者(北尾)による調査をもとに作成した「千葉県のカノープスの星名分布図」(北尾(2010)を一部追記)からも、房総半島においてメラボシが広範囲に分布していることを知る事ができる。

その他、2010年の調査を終えて、以下の3点を特記事項としてあげたい。

①2010年において、はじめて記録することができた星名があった。例:ジョウロ(静岡県伊東市)

②北海道、東北に広く分布するイカ釣りの役星の伝承(石橋 1989)が長崎県対馬においても伝承されていた(北尾 2002)が、2010年の調査で壱岐においても伝承されていることが明らかになった。

③2009年に引き続いて、星が見えない曇天のときも、星の出を感じるというイカ釣り漁師の「勘」を記録することができた。(宮城県気仙沼市唐桑町馬場、長崎県壱岐市勝本町勝本浦)

※

※

3月11日に発生した巨大な地震は、津波被害を加えて甚大な被害をもたらした。1980年5月に岩手県久慈市から下閉伊郡普代村を歩いて以来、何度も歩いた青森県から福島県にかけての海岸、2010年6月に、宮城県気仙沼市唐桑町、牡鹿郡女川町、石巻市寄磯浜と歩いた海岸で出会った漁師さん、元気に遊ぶ子どもたちの歓声を思い出しながら、無事を祈り続ける。

海は、恵みを与えてくれるとともに、命を奪いにくた。

自然災害に対して、人間は、無力であった。技術が自然災害の悲劇の救いにならなかった。暮らしのなかで生まれ伝承された文化は、消えてしまうのだろうか。

しかし、歴史のなかで繰り返された自然災害、悲しみを超えて、何百年、何千年と「文化」は伝承された。人間は負けなかった。文化は奪われなかった。

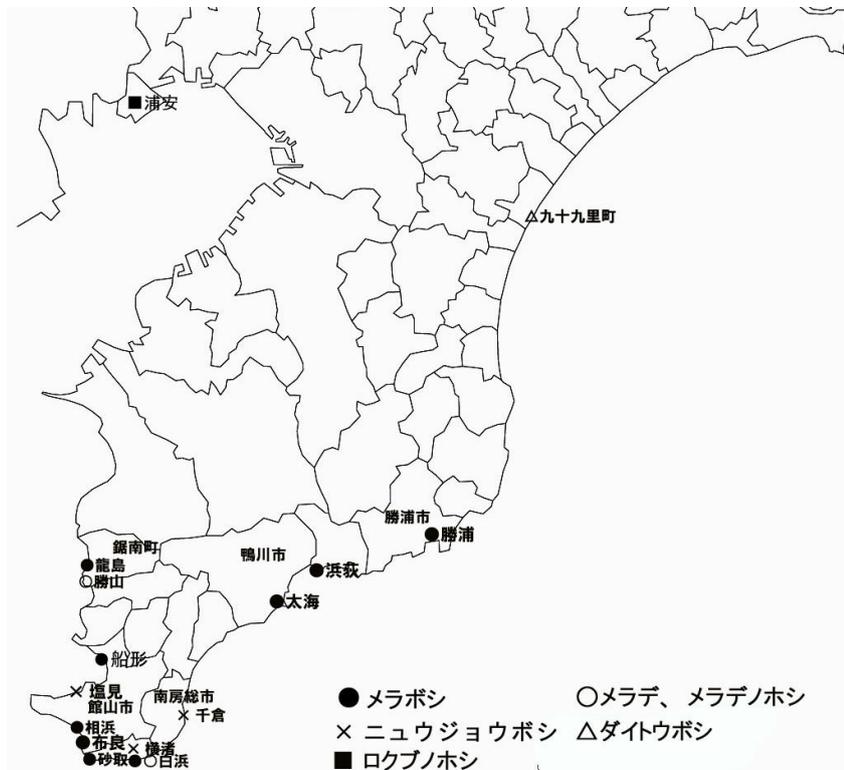
人びとにとって、星は「夢」でも「ロマン」でもなかったと思う。生活するという物凄く大変で苦勞がっぱいの現実と連続した世界だったと思う。海で家族のために魚を取る。山、海、星の知識も、生活に必要なものを生産するために欠かすことのできないものとして習得された。嵐、干ばつ、病い… 自然との闘いのなかで子どもが生まれ、成長し、一人前になり、そして、親になり、親は老いていく。その普通の物凄く大変な営みのなかに「星」があったと思う。

おそらく、星を見ようと思って星を見ることはなかったであろう。時間を知る、イカを釣る、その営みが星を見ることであった。星を見ようと思わなくても、生活することは星を見ることだったのである。だからこそ、生業をはじめ暮らしの様々な場面における生活用具や景観等のイメージを星空に描き、星名文化として形成されたにちがいない。

2011年も星名伝承の調査を続けている。2011年1月に三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島、2月に愛知県幡豆郡一色町治明にて、星名伝承を記録することができている。これからも、海岸を歩いて、生活者の星に対する観察の眼差しを星名伝承に発見するという仕事を続けていきたい。

### 参考文献

野尻抱影:1973, 日本星名辞典, 東京堂出版  
 草下英明:1982, 星の文学・美術, れんが書房新社  
 石橋正:1989, 乾杯! 海の男たち, 成山堂書店  
 石橋正:1992, 星空への手紙・続オリオン霊園気付野尻抱影先生, 星の手帖第57号, 河出書房新社, 86-87  
 北尾浩一:2002, 星の語り部, ウインかもがわ  
 三上晃朗: 星の民俗館ホームページ「日本の星の名」  
<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/starlore/>  
 横山好廣:2009, 日月星の伝承を訪ねて(14), YAA横浜天文会報 64 巻 3 号, 横浜天文研究会  
 横山好廣:2009, 日月星の伝承を訪ねて(15), YAA横浜天文会報 64 巻 4 号, 横浜天文研究会  
 北尾浩一:2010, 天界 10 月, 東亜天文学会, 361-362



千葉県のカノープスの星名分布図